

ヤマカ
減音マジック™

- ウォールタイプ
- パーテーションタイプ
- スタンドタイプ

すべてに
抗菌仕様を
ご用意

AHI減音パネルの概要

表裏素材：天然シナ合板(JAS規格F☆☆☆☆)
表面加工：天然シナ着色抗菌加工
厚サイズ：33mm～58mm 姿サイズ：900mm×1800mm
参考重量：58mm×900mm×1800mm 約9.8Kg/1枚



**30%以上の減音効果が
確認できました!** ※当社比 対グラスウール

完全無響音室において騒音測定器を用いて各音域に対する音減衰比較を行った結果、グラスウールを使用した場合に比べ、「減音マジック™」は30%以上の減音効果が認められました。測定用デモ機は、通常の室内やオフィスに使用される構造を再現しています。

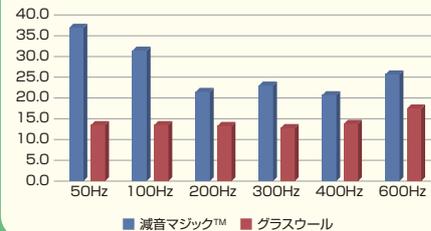
公的検査機関の測定環境

形式：完全無響室
内寸：幅3.6m×奥行4.8m×高さ3.9m
無響室内平均暗騒音：15dB(A)以下
逆自乗則特性：≤500Hz ±1.5dB、
1000～5000Hz ±1.0dB、
6300Hz ≤ ±1.5dB
吸音楔：音圧反射率 0.08以下
(遮音周波数100Hz)、
楔長さ 600mm(3連)
環境条件：温度20℃、湿度65% 一定

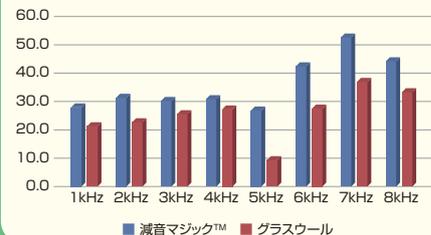
測定内容

測定場所：大阪産技研無響音室
室内環境：TA 22.1℃ RH 47.6%
WGT 18.7℃
音源内容：ミュージック曲
測定値：60秒間における平均値
実験機：●上部：石膏ボード材
●下部：一般フローリング材
●壁厚：60mm
●サイズ：900mm×900mm×900mm

騒音域における減音比較

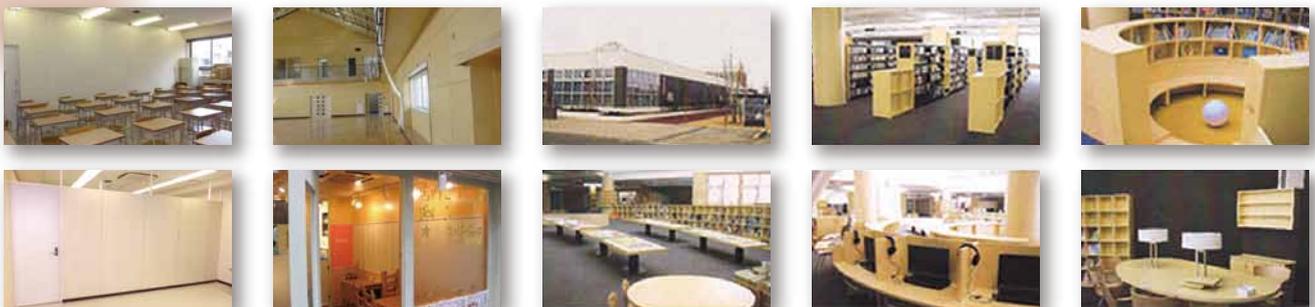


不快音域における減音比較



施工例

- ヤマカ「減音マジック™」は、各シーンにおいて、数多くの使用実績があると共に十分な「減音効果」を発揮しています。さらに施行は塗装の手間もいらず、納期短縮等、現場のみなさんにも好評です。材質は天然材、表面は「抗菌加工」を施しているため、医療・公共施設関係にもお使いいただけます。



■ ラインナップ



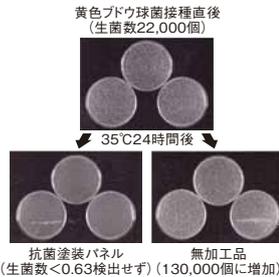
■ ヤマカAHIパネルの抗菌性/品質保持

抗菌試験

試験依頼先 財団法人日本食品分析センター
試験成績書発行年月日 2011年10月21日
試験方法 JIS Z 2801:2010 「抗菌加工・抗菌性試験方法・抗菌効果」
試験結果 (接種24時間後の生菌数)

試験菌	ブランク (無加工品)	極抗菌塗装パネル
黄色ブドウ球菌	1.3×10^5	< 0.63検出せず
大腸菌	1.0×10^6	< 0.63検出せず

抗菌塗装パネルの生菌数は、無加工品と比べると黄色ブドウ球菌で130,000分の1、大腸菌で1,000,000分の1以下となりました。



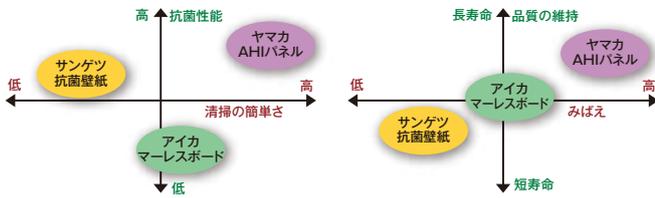
物性試験

試験成績書発行年月日 2011年10月24日
山形県工業技術センター試験成績表より
(試験体: 楕抗菌塗装パネル)

試験項目	特殊加工化粧板FWタイプの基準	結果
2種浸せきはく離試験	試験片の同一接着層にこけるはく離しない部分の長さがそれぞれの側面において50mm以上であること。	接着層のはく離無し。
寒熱繰返しB試験	試験片の表面に割れ、ふくれ、はがれ並びに著しい変色及びつやの変化を生じないこと。	表面に割れ、ふくれ、はがれ並びに著しい変色及びつやの変化無し。
耐水B試験	試験片の表面に割れ、ふくれ、はがれ並びに著しい変色及びつやの変化を生じないこと。	表面に割れ、ふくれ、はがれ並びに著しい変色及びつやの変化無し。
汚染B試験	試験片の表面に色が残らないこと。	色の残り無し。
摩耗B試験	摩耗値が50以上であり、かつ、摩耗量が0.1g以下であること。	摩耗値: 59 摩耗量: 0.052g
平面引張り試験	同一試料合板から採取した試験片の接着力の平均値が0.4 N/mm ² 以上であること。	1.4 N/mm ² 1.4 N/mm ² 1.5 N/mm ² 1.5 N/mm ²

(規格)
3mm×3×6 (915×1825mm)
5.5mm×3×6 (915×1825mm)
4mm×3×6 (915×1825mm)
4mm×3×7 (915×2130mm)
4mm×3×8 (1220×2430mm)

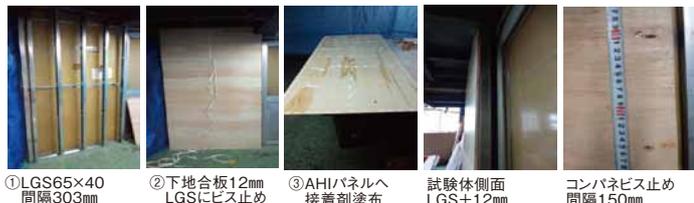
※すべて受注生産となります。(最小受注lot/20毎以上)
※ブリーチ(漂白)により色の均一化をはかっていますが、天然素材の為、可一ロット内でも、色の差が生じる場合があります。



■ 施工面衝撃試験 開始日:平成25年9月4日

目的 AHIパネルを接着剤とピンネイル(径0.6mm)併用で施工した場合の耐久性を確認する。

施工方法 LGS65×40 間隔303mm (写真①) ▶ 下地合板12mmをビス止め(写真②) ▶ AHIパネル5.5mmクリアー裏面へ ▶ 接着剤塗布(写真③) ▶ ピンネイル(径0.6mm)を200mm間隔にて打ち付け目透しにて施工完了(写真④)



①LGS65×40 間隔303mm ②下地合板12mm LGSにビス止め ③AHIパネルへ接着剤塗布 試験体側面 LGS+12mm コンパネビス止め 間隔150mm



④完成施工写真 (試験体全景の写真)

試験方法 施工された楕抗菌パネルに、以下の方法で衝撃を加え、回数毎のパネル表面や施工に用いたピンネイル等の状態の変化を観察する。

- ①バスケットボール7号球(高校及び一般用)をパネルからの距離60cmかつ床からの距離90cmの位置に130cmのひもで天井から宙つりにする。
- ②ひもを張ったまま、床からの高さ220cmの停止位置までボールを引き上げた後ボールを離す。ボールは、パネルの的のほぼ同じ位置に同じ軌道で衝撃を加えることとなる。なお、回数の測定にはTANITA-PD635(振動歩数計)を用いた。



結果 (途中経過)

- ◇9/30現在 衝撃回数 3,000回
観察事項:パネル表面及び施工に用いたピンネイル等の形状等に変化なし。
- ◇10/8現在 衝撃回数 6,000回
観察事項:パネル表面及び施工に用いたピンネイル等の形状等に変化なし。
- ◇10/15現在 衝撃回数 9,000回
観察事項:パネル表面及び施工に用いたピンネイル等の形状等に変化なし。
- ◇10/22現在 衝撃回数 12,000回
観察事項:パネル表面及び施工に用いたピンネイル等の形状等に変化なし。